

遊びの分類一覧表

(左のⅠ～Ⅳは、保育者が子どもや遊びをみる視点としての分類であって、子どもたちは通常、複合的に遊びます。)

遊びの分類	遊びの性質	育ちの要素	子どもたちに経験させたい主な遊び
Ⅰ. 物とのかかわりが中心となる遊び (物理的知識に基づく遊び)	子ども自らが物に働きかかると、その結果、物の反応(物の動きや変化)を観察し、いろいろな物の性質や機能を知る遊び	・情緒の開放、安定 ・知的好奇心 (認識や思考力の芽生え、積極的に周囲にかかわろうとする態度や意欲)	○クッキング(ジュースづくり、ホットケーキづくりなど) ○砂場遊び ○粘土遊び(土粘土、小麦粉粘土) ○水遊び(色水遊び、シャボン玉遊び、浮かべて遊ぶ、ジャンクなど) ○マト当て遊び(ボーリング遊び、斜面遊び、こままわしなど) ○楽器遊び ○造形遊び(紙で遊ぶ、空き箱で遊ぶなど) ○絵画的遊び(描いて遊ぶ、フィンガーペイントなど)
Ⅱ. 人とかかわりが中心となる遊び (集団遊び)	友だちとかかわって遊ぶ体験を通して、相手の感情や考えに気づき、自己の感情や考えを調整したり、修正したりして遊ぶ。	・情緒の開放、安定 ・自己中心的な感情や考えから徐々に脱却しながら、社会化する。(自主、協調的な態度や思考力、及び道徳性の芽生え)	○伝承遊び(かごめかごめ、あやとり、ロンドン橋など) ○鬼遊び(めだかの学校、高鬼鉄鬼、ハンカチおとし、など) ○カードゲーム(かるた、家族合わせ、トランプ、など) ○ボードゲーム(すごろく、オセロ、3目並べ、ドミノ、など) ○物かくしゲーム(宝さがし、かくれんぼ、缶けり鬼、など) ○その他の遊び(かまっこ、リレー、イスとりゲーム、ドンジャンけん、など)
Ⅲ. 表象機能が中心となる遊び ○象徴遊び	「物」や「人」、あるいは「社会的事象」などを自分のイメージや言葉で意味づけをし、表現する遊び。	・情緒の開放、安定 ・自分で再現したい物や人、事象の仕組みや機能、特徴などを再現して、それらを再構成する。 (想像力と想像性、心情)	○ごっこ遊び(ままごと、おうちごっこ、乗り物ごっこ、お店やさんごっこ、など) ○劇ごっこ・劇遊び(三匹のこぶた、七匹のこやぎ、おおきなかぶ、てぶくろ、など) ○造形遊び(折り紙、積み木遊び、ブロック遊び、など) ○音楽遊び(歌、おどり、など) ○絵画遊び(花火、自動車など自分のテーマ性をもって描いて遊ぶ) ○粘土遊び(自分のテーマ性にそい、つくって遊ぶ) ○砂場遊び(ごちそうやリ、ダムなどをつくって遊ぶ)
○言語(話し言葉、書き言葉)が中心となる遊び	・言語を開き取り、内容を読み取る遊び ・文字の読み書きを伴った遊び	・社会・文化的好奇心とその適応	○絵本 ○紙芝居 ○ストーリーテリング ○歌 ○手遊び ○かるた ○文字カードを使ったしりとり遊び ○デイリーニュース ○ビッグブック ○絵日記 ○絵カードを使ったお話づくり ○ガイドブックリーディング ○リサーチ など
Ⅳ. その他の遊び ○運動が中心となる遊び	・運動機能を使った遊び	・情緒の開放、安定 ・健康な心身 ・敏捷性、平衡性、巧緻性、柔軟性などの調整力 ・挑戦してみようとする意欲や態度	○プール遊び(水遊び、泳ごうとする) ○運動用具、移動遊具を使った遊び(巧技台、三輪車、足場板、すべり台などコンビネーション遊具、竹馬、なわとび、ボールなど) ○かまっこ、リレー ○遊歩(虫探し、ザリガニ探し、土手滑り、公園まで行く、など) ○リズム体操
○飼育・栽培	・観察、発見とその対応	・想像力、心情 ・生命のしくみ ・観察力と自分の役割	○飼育(ザリガニ、金魚、おたまじゃくし、など) ○栽培(朝顔、ミニトマト、チューリップなど)

